



Washington Japanese Language School

ワシントン日本語学校

はなみずき

mail:wjls@wjls.org <http://www.wjls.org/>

2019 年 12 月 14 日発行 第 29 号

ワシントン日本語学校
校長 森 宏 介

[ワシントン日本語学校事務局]
HOT LINE (301)962-7415
TEL (301)962-7410
FAX (301)962-7411



教育講演会を開催しました

11月23日午前、本校と日本をインターネット回線でつないで2名の先生にご講演をいただきました。午後からは、別途「新たな学習方法説明会」を予定しており、保護者の皆様にお集まりいただけるか心配していましたが、予想に反し、カフェ4がいっぱいになるほどの盛況でした。ここでは、その概要についてお知らせいたします。

講演 1 海外で学ぶ子どもたちへ

—グローバル人材としての期待と課題—

首都大学東京国際センター

教授 岡村 郁子 先生
(元ニューヨーク補習校教師)
AG5 運営指導委員



日本は、語学力及び国際経験が乏しくグローバル化が立ち遅れている。そのため、国家戦略としてグローバル人材の育成に注力しており、その期待が海外からの帰国生に集まっている。特に補習校では、ダラス校を拠点にワシントンでもグローバル人材育成プログラムが開発されている。補習授業校を対象にした調査の結果、帰国予定 44.3%、永住予定 19.6%に対し、「わからない」が 36.1%と在籍者の多様化が進んでいる。「補習校が好き」な子は約 7 割、「やめたい」と思った子は 6 割ほど。土曜日に遊べない、宿題が多いなどがその理由である。また、国内の子どもと比べ、自己肯定感が高く、将来、海外で働きたいと考える子が多いなど、グローバル人材としての期待は大きい。

コーディネーター

海外子女教育振興財団
教育相談員 佐々 信行 先生
(元ワシントン日本語学校教師)
AG5 運営指導委員



講演 2 ダラス補習校の実践

—これからの補習授業校の展望—

東京学芸大学附属国際中等教育学校

副校長 雨宮 真一 先生
(元ワシントン日本語学校教頭)
AG5 研究員

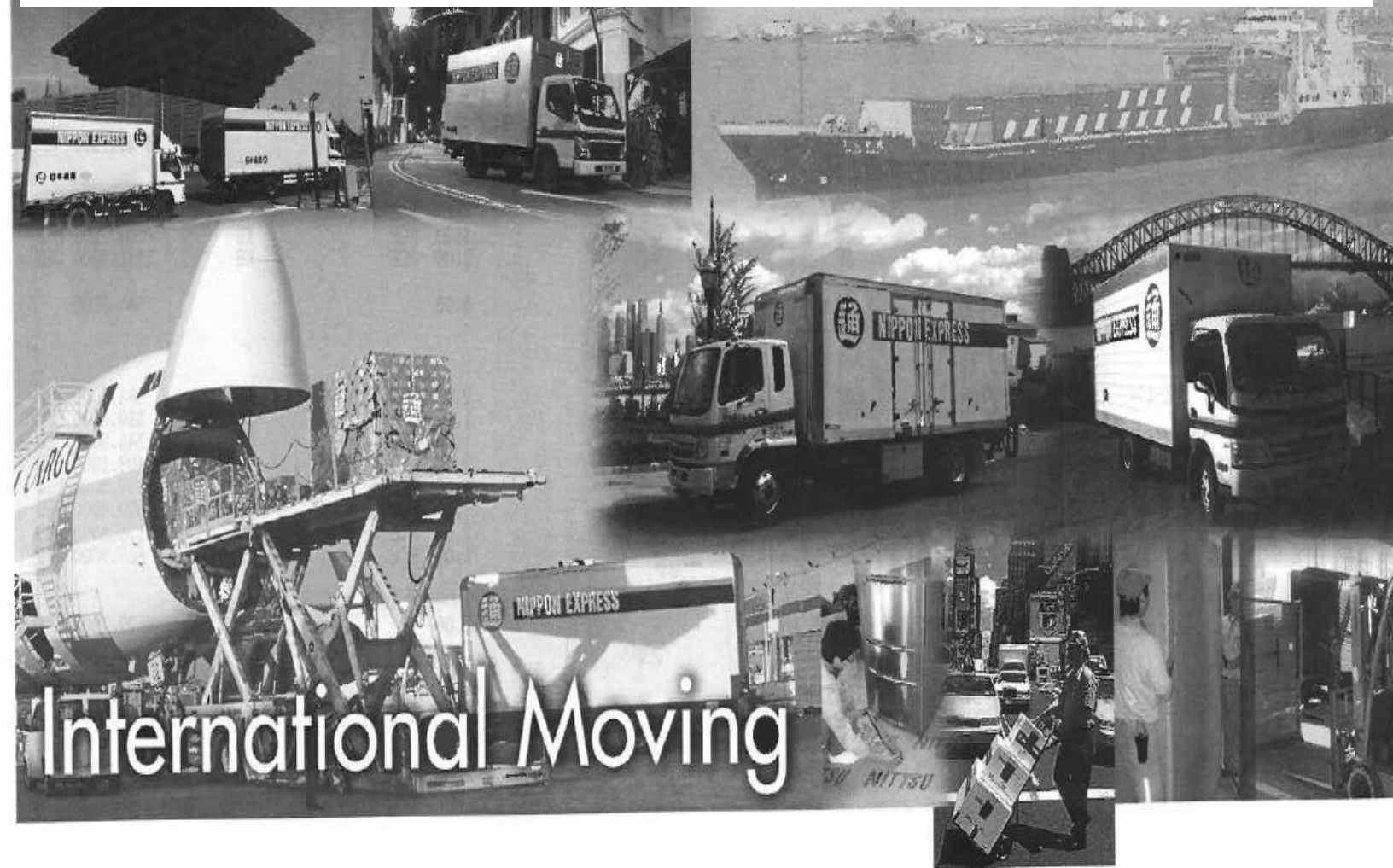


新学習指導要領は、学習内容を削減せず「主体的・対話的で深い学び」に向け学び方を変える方向に舵を切ったものだ。AG5もその方向で研究を重ねている。2017 年、ダラスで行った授業で手ごたえを得た私たちは、翌年 6 単元の学習指導開発に着手。本年度はダラスの先生方が主体的に授業づくりに取り組んでいる。

ダラスでは、子どもの力を高め授業をアクティブな方向に変えるために、「ジグソー法」「反転授業」「ビブリオバトル」「なたもた作文」「ポスターセッション」「物語即興スピーチ」などの学習法を取り入れるとともに、動画を活用した朗読テストや発表会を位置付けるなどして成果を上げている。今後は、補習授業校の学習と連動した家庭学習、国語以外の教科で日本語運用力を高めること、一斉授業と習熟度別指導のバランスをとることが大切である。

岡村郁子先生、雨宮真一先生が講演で使用了スライドは、ワシントン日本語学校講演会資料
<https://www.wjls.org/parents/lecture/>
で閲覧することができます。

帰国の際の引越しは、日通にお任せ下さい



海外からの帰国にピッタリな引越しプラン

スタンダードサービス: 梱包から大型家具の輸送までお客様のニーズにお応えします。

スモールパッケージサービス: お荷物の少ない方にお勧めのお得なパッケージサービスです。

お申し込み、お問い合わせは米国日本通運ワシントン支店まで

ダラス補習授業校佐藤先生の実践

―学校と家庭が連携して行う授業―

本校では、今後、学校と家庭の両方で実施する授業（反転授業）を取り入れようと考えています。そのイメージをもっといただくため、教育講演会でダラスの実践をもとに説明いたしました。その概要を紹介します。

題材は6年単元「海の命」。佐藤先生は、指導に入る前、学習に必要不可欠な言葉調べを宿題に出します。

1日目の授業の中心は、あらすじの理解。「範読」「音読練習」に続き、意見交流、宿題の確認へと続きます。この日配られたワークシートは家庭学習を通して完成させます。

2日目の授業のねらいは「登場人物の関係図をつくる」と「太一の心が一番変化した一文をさがす」ことの2つ。宿題のワークシートをもとに交流し考えを広げた後、太一の心が一番変化した場面を、まずは自分で、次にペアで、その後グループ、そして全体でというふうに、範囲を広げながら意見交流を行い、最後には、「なぜ太一は瀬の主にもりを打たなかったのか」を考えることで物語の主題に迫ります。

交流場面の続きは、家庭に持ち込みます。この時間に使用したワークシートを使って、親子で太一の心境の変化について話し合います。

3日目の授業のねらいは、「太一の生き方について考える」こと。その日の家庭学習はユニークです。要は音読に取り組むことなのですが、親子で「NHK for school」の「お伝と伝じろう」を視聴し、心のこもった朗読に取り組めます。

4日目の授業のねらいは、太一宛てに書いた手紙を朗読し、それをビデオレターにすることを通して考えを確かめることです。その後、ルーブリックを活用し、この学習を通してできるようになったことを自己評価します。この評価は、学校だけに止まりません。家庭でも親子で学習の成果を確かめ合います。最後の宿題もユニーク。子どもに課せられたものではなく、子どもの自己評価や親子で行った相互評価の感想を文章に書き担任に提出するという親に課せられたものだからです。

今後、3～6年生の国語で、このような「家庭と連携した授業」を進めたいと考えておりますので、ご協力の程、よろしくお願いいたします。（校長）

「AG5」三校合同授業(高等部2年)

11月16日、23日の両日、本校とダラス、シンシナティの3校をインターネット回線で結んで活発な討論が展開されました。議題は、「東京オリンピックの招致はよかったのか」というもの。50名を超える生徒がオリンピック招致の是非を問う「正解のない議論」です。

1日目のねらいは、3校の生徒が同じ情報を共有すること。NHK放送文化研究所が行ったアンケート調査結果やオリンピック招致に関する新聞報道、スポーツライターの意見、猪瀬直樹元東京都知事のツイート等、合計10の資料を読み合わせながら事実や筆者の考えを理解します。簡単な意見交換を経て交流タイムは終了しましたが、その後も各校での意見交換は続きました。

続いて2日目。それぞれの考えを深めることをねらいます。「少子高齢化社会を迎えた日本にグローバル化は不可欠。」「レガシー効果を含め30兆円規模の経済効果が期待できる。」等の肯定的な評価、「計画自体が不透明で最終的には税金が投入されるのでは?」「都市と地方の格差を広げることになりかねないのでは?」「日本はオリンピックに頼らなくてもアピールできる魅力ある国である!」等の意見が息つく暇もなく活発に展開されました。なかには、資料を読み込む際、漢字にルビをうち辞書で意味を確かめるなどの努力が必要な生徒もいましたが、発言に関する積極性は群を抜いて優れているという印象を受けました。「主体性・積極性、チャレンジ精神」は、グローバル人材に求められるもののひとつ。それが育ちつつある生徒が頼もしく見えた2日間でした。

